

1. ハルタル、既製服製造業に悪影響

バングラデシュのハルタル騒動は、海外の会社に悪いイメージを与え始めている。中国より安いベースの製造基地を探していた投資家たちに、リスクのある国としての認識を与えてしまった。1971 年のバングラデシュ独立戦争のときの、戦犯 3 人のイスラム政党の 3 人のリーダーに対する判決の暴力的な抗議は、少なくとも 60 人の死者を出し、それが広まりハルタル＝ゼネラル・ストライキにつながっていった。現在、「バングラデシュはビジネスをするのにいい場所であった」と、過去形で語る会社も出始めてきた。

2. ハルタルに嫌気 欧米バイヤー、インドや中国へ向かう

現在進行中の政治混乱で欧米のバイヤーたちがダッカでのトラブルを避けるため、インドや中国での生産を考え始めて、既製服製造部門では不安定な状態が続いている。普段はダッカを訪れ、工場を訪問し、注文をしていた多くの欧米のバイヤーたちは、今、バングラデシュ訪問を中断している。彼らはバングラデシュの将来に不安を感じ、少し高い値段を出しても他の国から衣料を買うことを考えている。もしこれ以上、状態が悪くなれば、「今年度の終りまでに、215.3 ドルという輸出目標を達成することは難しくなるであろう。しかし、状況が変われば、注文は流れ込んでくるであろう」と、既製服製造業者たちは述べている。ヨーロッパのバイヤーたちはじっと待ち状況を見守っているが、巨大小売店ウォルマートなどのようなアメリカのバイヤーは、タズリーン・ファッションの大火災問題もあって、バングラデシュからの購入を減少させることをほのめかしている。

3. 既製服製造業の在庫、ハルタルのため急増

「既製服(RMG)製造業者の製品在庫は、ハルタルのために増え続けている」と、BGMEA (バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会)の研究班は言った。「RMG 産業は現在進行中のストライキや操業停止、暴行などのような政治混乱で危機的状態に突入した」と、BGMEA 会長者シャフィウール・イスラム・モヒウディンは語った。

ナッサグループのコンドカール・モアマッド・サイフル・イスラムは、「繊維物産業は全て生原料の輸入に頼っている。しかしストライキや操業停止の間、外国から何も輸入できなかった。このことは国の輸出目標に深刻な問題として影響するであろう」と言った。「過去 2 ヶ月の政治混乱のため自信をなくした外国の RMG バイヤーたちは、その輸入注文を取り下げた」と、イースタン・アパレル・リミテッドのナシール・ウッディン・チョードリは語った。政治混乱の状態がこれからも長引けば、RMG 製品の輸出は大幅に減少することの恐れを輸出業者は語っている。

4. 米の小売業者、ハルタルでもバングラ発注を増やす意向

バングラデシュ衣料の海外バイヤーたちが、国内の政治不安が大きくなっているのを心配しているときに、「アメリカに本部を置く小売業者が 25%注文を増やし、今年 3 億 7500 万ドルに増やすことを決定した」と関係者は語った。小売業者:シアーズ・ホールディング・グローバル・ソーシングの経営者兼代表取締役のジェイ・バーデットは、「私は時間通りに輸送できるよう我々のサプライヤー が準備しているかどうか見に来た。ストライキの日でも工場がフル稼働しているのを見てうれしく思っている」と語った。現在彼は、バングラデシュに関してポジティブサインを本部に送る計画をしている。しかし、同時に彼は発注の中止も考えているという。「対立が激しくなり、否定的なイメージが広まればより重く国に負担が掛かってくる。また衣料工場の生産はストライキにもかかわらず滞りなく続けられているが、輸送用の交通機関がない。だから船積みが遅れてしまう。それが致命的になる可能性があるからだ」と彼は続けた。

地元の輸出業者も、工場出荷が遅れた場合、船会社が荷物の受け取りをしない場合が多いと不満を述べている。大手衣料メーカーであるナッサグループの代表取締役コンドカール・モハマッド・サイフル・アラムは、「船が港にあっても、船出するまでには数日かかるので、船会社は荷物は受け取りたくないのだ」と語っている。「バイヤーは船会社に期限に遅れた荷物は受け取らないようにと指示している」と、シアーズに年間 1 億ドル相当の売り上げをしているナッサの関係者は語った。バーデットは、「多くの衣料は季節物でディスプレイの期間は数週間しか残されていない。2～3 日の遅れならば大丈夫であるが、サプライヤーたちは数週間も輸送を遅らせるべきではない」と言った。年商 400 億ドルのシアーズ・ホールディングは、アメリカとカナダに 2600 以上の小売店を持つ統合小売業者である。ツールや芝ガーデン、フィットネス機具や自動車修理とメンテナンスとともに家庭電器商品の小売業者として大手である。「輸送の遅れは我々の配送や市場チェーンを妨げてしまう」と、バーデットは言った。シアーズはバングラデシュとのビジネスを減少させる計画はない。混乱の中でのバーデットの訪問は絆を強め、注文を増やした。「バングラデシュは我々のアパレル製品のためにとっても大切な生産基地である。我々は近いうちにもっと注文を増やすであろう」と、バーデットは語った。

5. ウォルマート、バングラ生産から撤退か タズリーン・ファッションの火災の影響

世界最大の小売店のウォルマートは、バングラデシュの縫製工場と関係があったことが特に問題になっている。11 月に大火事で 100 人以上を死亡させたタズリーン・ファッションには、サプライヤーがウォルマートに内緒で下請けをさせていたことが判明。ウォルマートはそのことを大きく受け止めて、1月に、新「ゼロトレランス方式」を世界中のサプライヤーに警告し、工場健康安全イニシアティブを発表した。ただしこの方策には、その努力に対する経費が補填されるのかなどの詳細は提供されていない。新聞発表によると、現在、ウォルマートはバングラデシュ依存度を減少させていく戦略もとっているという。

バングラデシュは世界でも中国に続き 2 番目に大きなアパレル輸出国である。それは 190 億ドル相当の産業である。世界労働人権機構の部長チャールズ・カーナガンは、「バングラデシュの労働賃金は世界で一番低い。また国会はビジネス委員会に管理され、輸出加工区は軍隊に管理されている」と語っている。ウォルマートの国際会社情勢局のシニアマネージャー、メガン・マーフィーは e メールで、「バングラデシュは労働権を強化するために大改革を進める一步を踏み出す必要がある。我々はその政府、サプライヤー、工場と協力し、労働者の安全条件と労働基準を改善する機会を歓迎する。ウォルマートのコストは上がっていくかもしれないが、このような国々でよりよいインフラから利益を得ることもできるのだ。これはウォルマートがバングラデシュのサプライヤーに意味ありげなメッセージを送っていると理解されるかもしれない。我々が貴国を必要にしているよりも貴国が我々を必要にしている」と、発信している。

6. BGMEA、新会長にバトンタッチ

辞任するバングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会の会長は、「政治リーダーたちに、既製服製造部門に重い負担が掛かるようなプログラムはしないほしい」と要請した。この既製服製造部門は、すでにガスや電気不足、技術労働者不足などのようなさまざまな危機に直面している。主な輸出先の EU 諸国やアメリカで長引く経済危機は、既製服製造部門の経営者の苦しみを余計悪くしている。この部門に対する損害は、バングラデシュ経済に対する大きな損害となる」と、ダッカの事務所で開かれた貿易団体の第 30 回年次総会で語った。そして彼は政府と BGMEA の新委員会に、「ラテンアメリカ、インド、日本、南アフリカ、中国、マレーシア、韓国、オーストラリアそしてニュージーランドなどのような新しい市場は将来有望な兆しがあるので輸出先を多様化するように」と強調した。年次総会でモヒウッディンは、BGMEA の新しく選出された会長のアティクル・イスラムに権限を渡した。新会長は、「衣料ユニットのガスコネクションを優先させ、労働法を改良し、弱まっている衣料ユニットに援助し、銀行利子を下げることに努力する」と言った。

7. 火災安全訓練実施

商業省秘書官のマハブブ・アハメドは、「バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会が、34,000 人の労働者と中堅オフィサーを 6 月までに火災安全訓練をさせることになった。また火災安全と労働法について、国家行動計画が 3 ヶ月で可決されることになっている」と言った。去年の 11 月 24 日アシュリアで起きた致命的な火災の後、さまざまな工場から労働者や中堅オフィサーが合計 3,500 人がすでに訓練を受けている。バングラデシュ消防民間防衛隊との合同で BGMEA がこの訓練を行った。

8. 織物繊維産業の育成を

国内の織物繊維産業には、まだ開発可能な分野がたくさんある。地元の既製服製造(RMG)部門は大きく成長しており、その生地需要は増加しているが、供給は混沌とした状況にある。織物繊維部門への新しい投資は、昨年度、大きく減少した。2009 年には織物繊維部門へ合計 107 億タカの投資があったが、2011 年には投資の合計は 9 億 9 千万タカになってしまっている。国内の織物繊維部門への投資が減った理由は、電気、ガスなどが十分に供給されていないからである。現在、地元の織物繊維メーカーは RMG 部門やからの需要に 35%しか合わせることができず、他は輸入で間に合わせている。RMG メーカーは、彼らの増え続ける需要に合わせてより安い中国の繊維を輸入している。この状態についてバングラデシュ繊維工場協会(BTMA)の会長ジャハンギール・アラミンは、「我々は地元の RMG 部門の 35-40%しか需要を満たすことができない。200 億ドルに相当する RMG 部門輸出のうち、地元で生産される繊維は 7 億から 8 億ドル相当のものだけである。地元の繊維メーカーから RMG ユニットへの供給が大幅に増加することで、RMG 部門による輸出収入に対して、もっと大きな国内価値の追加を確実にできると予想している」と、話している。

9. EPZ 内企業の高層化

バングラデシュ輸出加工区局は 2012-2013 年度の 8 ヶ月間で、輸出で 13.27%増、雇用で 22.63%増を達成した。過去 8 ヶ月間の、EPZ になされた実質投資は、2 億 2268 万ドル相当で、これは昨年と同じ時期に比べると 5.39%下回った。現在、EPZ 内に空き地はなく、当局は既存の工場の拡大要求には高層化を勧めている。現在、各 EPZ 内では、

415 の企業が操業中であり、そのうち 234 が海外独資、62 が合弁、119 が内資のものである。

BEPZA(バングラデシュ輸出加工区局)の幹部会議長の KM モミヌール・ラハマン少将は、「地元と外国からの投資家が激増しており、EPZ 内の土地不足が深刻となっている。多くの企業の需要に対応するためには、高層化せざるを得なくなっている。バングラデシュは安い労働力のために投資者にとっては大当たりの国として知られている。現在のところダッカ、チッタゴン、コミッタ、アダムジーそしてコノフリ EPZ 地区には空いている敷地はない。ウットラ、イシュワルディそしてモンゴラに少し敷地が残っているだけだ。しかしこれらは大きなスケールの企業には十分な大きさではない。中小企業の需要にあわせるとこれらの残っている土地もすぐになくなってしまおう。海外からの大きな金額の投資に魅力的な可能性があるにもかかわらず、BEPZA は土地危機のために新しい申し込みをあきらめざるを得ない状態になっている。特にダッカやチッタゴンの EPZ はそうだ。工場敷地不足のために隣国へ投資外交していく可能性がある。われわれは、EPZ の中に土地を持っているにもかかわらず使用していない多くの企業に書簡を出し、空いている土地に工場を建設するか、手放すかを促した。それに対して多くの投資家たちは、新しい投資のために時間がほしいと回答したのでわれわれはそれを認めた」と語った。そして、「BEPZA はすべての投資をバングラデシュに移そうと考えている中国、日本、香港、タイ、そして台湾のような国々の投資家たちの大型需要に直面している」と、付け加えた。

10. バングラデシュ、観光業が盛況に

バングラデシュでは 2006 年から 2010 年の間に、観光業が平均15%の成長を見せている。中央銀行のデータによると 2010 年には 303,386 人の海外観光客がおとずれ、彼らは 55 億 629 万タカを消費している。地方の観光事業規模も大きくなっており、昨年は 150 万人(5%が外国人)の人々がコックスバザールを訪れている。世界観光旅行カウンスル(WTTC)によると、2011 年バングラデシュ観光旅行が経済への直接貢献は1兆825億タカ(国民総生産の2.2%)であり、これは 2012 年には 7.3%にまで上昇すると予想される。自然の美しさ、古代遺産そして心のこもったもてなしでバングラデシュはすばらしい観光目的地になる可能性を持っている。工業がだんだん開発されるにつれ、利益が地元の人々にも流れ込んできている。WTTC データによると 2011 年には観光旅行は1,329,000(全体雇用の1.9%)人の仕事を支えていた。2012 年には 3.6%までに増えることが予想され、その後毎年 2.9%ずつ増え、2022 年には1,840,000(全体雇用の2%)の仕事が生み出されるものと見ている。この年には観光事業を支える雇用は、その他の産業に間接的に及ぼす雇用も含めると全体雇用の 4.1%(2,880,500 人の仕事)となる。

観光事業の可能性を利用するために、2010 年に政府は新観光旅行政策を作った。これはバングラデシュの伝統や文化の観点からエコ観光、コミュニティ観光、田園観光、巡礼観光、川沿い観光そして考古学観光など様々な分野に光が当てられる。バングラデシュの観光事業はさまざまな角度から 2021 年国の展望を成し遂げることに貢献することができよう。しかし、そのためには十分な予算配分で短期中期そして長期のプロジェクトが要求される。また交通状態も観光客が問題なく目的地にたどり着けるように改良されなくてはならない。

11. 出稼ぎ労働者の活躍

国連関係者は、「出稼ぎ労働者による母国への送金はバングラデシュのような発展途上国のような国々の貧困を減少させるのに大きな役割を果たしてきた」と語った。バングラデシュでは、主に中央アジア、湾岸諸国のさまざまな国に出稼ぎに行っている 8 百万人の労働者からの国への仕送りが 140 億ドルに上る。出稼ぎは貧困から抜け出し、リスクを減らし、よりよい生活をするための手段を求めている人々の戦略となっている。今日、世界には 2 億 1500 万人の出稼ぎ労働者がいると推定され、2040 年までにはこの数字が 4 億人に成長すると見られている。出稼ぎ労働者は母国に残した多くの家族を養い、コミュニティ全体の生活水準を引き上げることに大いに役立っている。

12. 交通事故の削減努力

バングラデシュ道路交通局(BRTA)によると、バングラデシュの年間交通事故の割合は 10,000 台の車に対して 85.6 台となっており、これは多くの開発途上国より多い数字となっている。そのためバングラデシュ政府は、道路やハイウエーのデザイン欠陥を探しだすための調査を始めた。事故が起きると運転手たちがいつも責められているが、交通専門家は道路やハイウエー自体に欠陥があると分析している。道路及び高速道路開発(RHD)のチーフエンジニア、マハブブ・ウル・アラムは、「知識がないために、我々は新しい道路開発計画の提案がきたとき、デザインに欠陥があることを問題にすることができないことがしばしばある。我々は現存する道路やハイウエーのデザインを変える際、事故を避けるためのステップさえ取ることができなかった」と言った。RHD は将来、道路やハイウエーをデザインする際に RHD の関係者がその能力を発揮できるようにするため、関係者を訓練し、2020 年までに致命的な事故を 50%減少させることを目標にした。

以上